



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表)

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

循環器内科

下肢末梢動脈疾患に 対する新しい取り組み

近年、動脈硬化性疾患の治療経験がある患者さんには体の他の部位にも動脈硬化が起きているという、“**全身性動脈硬化症**”という概念が提唱されています。

例えば、狭心症や心筋梗塞は冠動脈という心臓に栄養を送る動脈の硬化によって発症する病気ですが、冠動脈の硬化がある患者さんは脳を養う動脈(脳血管)や足の筋肉を養う動脈(下肢末梢動脈)など、他の臓器に栄養を送る動脈にも硬化が起きているという概念です。

この概念のきっかけとなったREACHレジストリーという研究(図1)では、冠動脈疾患患者の約10%に下肢末梢動脈疾患が、約17%に脳血管疾患が並存し、また、下肢末梢動脈疾患ではその約半数に冠動脈疾患を合併していたという結果が報告されました。この様に、動脈硬化は複数の臓器にまたがって存在する可能性が高いことが知られる様になり、一つの動脈硬化性の病気が見つかった場合は、全身に動脈硬化が及んでいる可能性を念頭に診療を進めていくのが望ましいと考えられる様になりました。

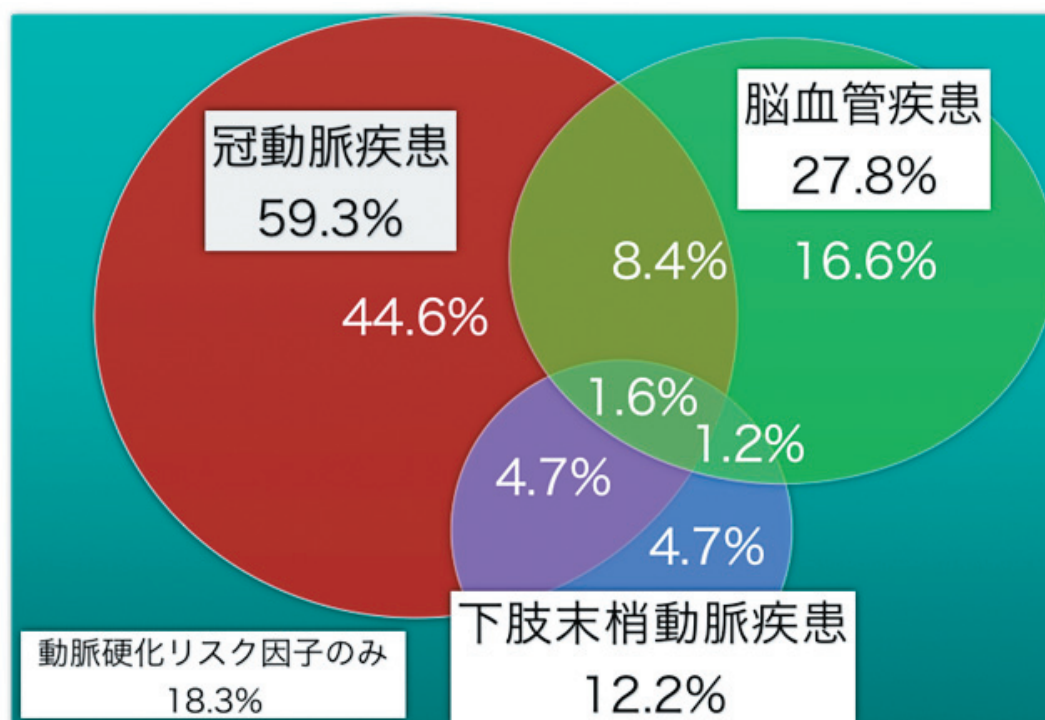


図 1 (REACH レジストリーから作図)

循環器内科

下肢末梢動脈疾患に 対する新しい取り組み

循環器内科ではこれまでも多くの冠動脈疾患の治療を行なってきましたが、“全身性動脈硬化症”の概念に基づき、平成29年春より下肢末梢動脈疾患の治療にも力を入れて診療を行っています。

足の血圧低下(腕の血圧の90%以下への低下、正常例では足の血圧の方が高い)がある患者さんで、

- 歩いたり走ったりした際の足の痛みを自覚している方
- 足の冷たい感じやしびれ感を自覚している方

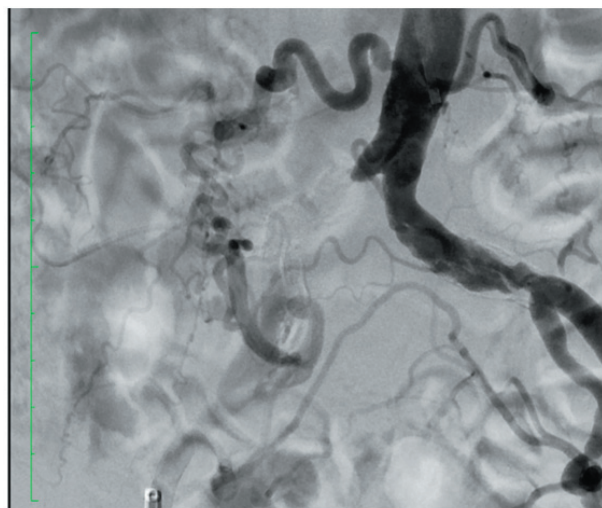
さらに重症例では

- 足の傷の治りにくさ、足の壊死などの症状をお持ちの方は、

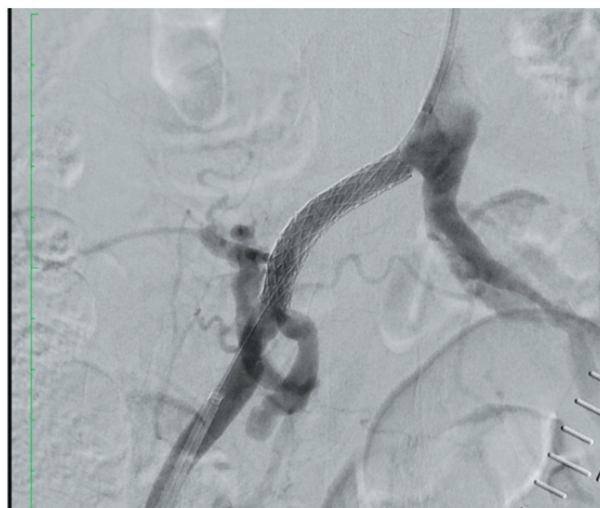
下肢の動脈硬化、動脈が狭くなっている可能性があります。こうした患者さんは、原因となっている足の動脈の狭くなっている部位や詰まっている部位をカテーテル治療で再開通させることで症状の改善や足の傷の治癒が期待でき、これまでも多くの患者さんに、その治療効果に御満足頂いています(図2)。

上記の症状でお困りの方は、主治医にご相談の上、循環器内科の受診をぜひご検討ください。

図2 (治療前(左)と治療後(右)の動脈の様子)



治療前 歩行時に右足の痛みがあり、右足の血圧が右腕の血圧の53%でした。右総腸骨(腰の動脈)に閉塞がありました。



治療後 治療により閉塞した部分の再開通に成功しました。右足の血圧は右腕の血圧の102%に改善しました。

(循環器内科 副部長 古閑 靖章)